

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 72人

② 算数 72人

5 留意事項

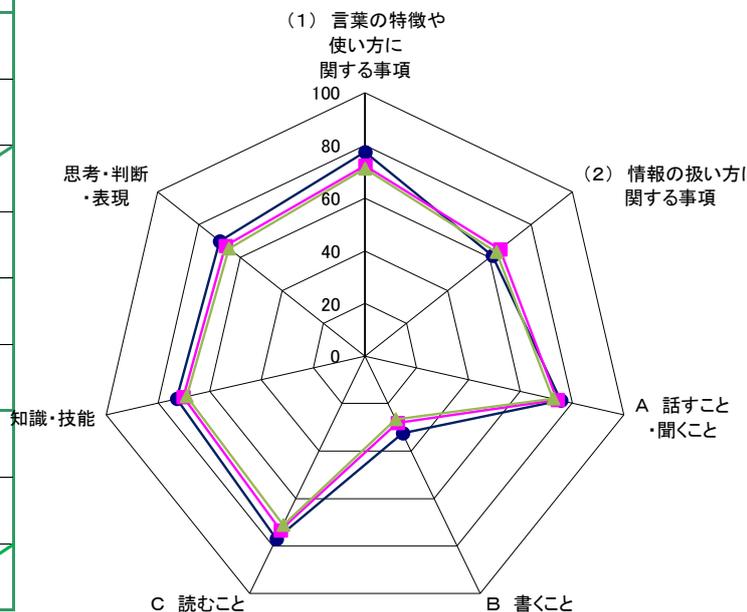
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	77.5	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	61.3	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.6	74.2	72.6
	B 書くこと	32.4	28.2	26.7
	C 読むこと	77.0	73.3	71.2
観点	知識・技能	72.8	70.2	68.9
	思考・判断・表現	70.0	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

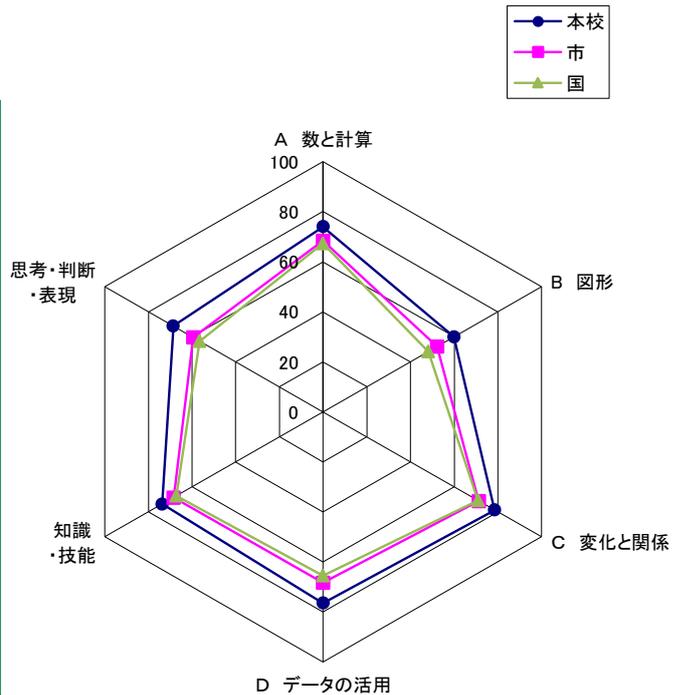
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は77.5%で、市の正答率を5.2ポイント上回った。 ○特に、漢字の書きでは、2問とも16ポイント、11ポイントと市を上回った。日常よく使う敬語の問題は市の平均を1.3ポイント上回った。 ●送り仮名を正しく書く問題では、市の平均を3ポイント下回った。	・漢字の学習については、くり返し練習するとともに、文章の中で既習の漢字を使い、場面に合った漢字を漢字の意味とともに習得させていく。 ・送り仮名にも注目させて漢字の理解を深めさせていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は61.3%で、市の正答率を3.7ポイント下回った。 ○原因と結果など、情報と情報との関係について理解する問題では、7.2ポイント上回った。 ●情報どうしの関連付けの仕方や、図による語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題では、10.8ポイント下回った。	・記号や印などを用いた情報どうしの関連付けの仕方を練習させるとともに、その作業の目的や意味を確認し、普段の授業や活動の中でも、そのような情報の整理の仕方ができるように指導していく。 ・図などの目を引く資料に注目してしまいやすいところが見られたので、しっかりと本文に着目し読み取る力をつけていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は75.6%で、市の正答率を1.4ポイント上回った。 ○必要なことを質問しながら聞いたり相手の伝えたいことの内容を捉えたりする問題では、約10ポイント上回った。 ●目的や意図に応じ、話の内容を捉え自分の考えをまとめ伝える問題では、3.8ポイント下回った。	・相手の話を聞き自分の考えをまとめ伝える力がさらにつくように、伝えたいことを落とさないように、話す内容を整理したり、分かりやすい構成で話したりできるよう指導していく。 ・今回の問題では、既定の文字数まで書けなかった児童が多くみられるので、内容は、必要なことだけでなくさらに分かりやすい文になるよう考えることを指導する。
B 書くこと	平均正答率は32.4%で、市の正答率を4.2ポイント上回った。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができるかをみる問題で市の平均正答率を5.1ポイント上回った。 ●市の平均を上回ったとは言え、正答率は、32.4ポイントと低い。	・いくつかの資料をもとにして作文を書く課題に取り組ませる。読み取ったことを正しく理解して目的に合った文となるよう構成する力を付けさせていく学習を行う。 ・課題作文を書く活動に取り組ませる。普段の授業の中でも条件を設定して答えさせるなど、普段から条件を意識して文章を考えるように指導する場面を増やす。
C 読むこと	平均正答率は77.0%で、市の正答率を3.7ポイント上回った。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見つける問題で、10.7ポイント、中心となる語や文を見つけて要約する問題は、3ポイント上回った。	・今後も、多くの資料をから筆者の意図を正しく読み取る学習を続けていく。 ・文学的な作品の文章だけでなく、身近なパンフレットなどを活用して情報発信者の意図を正しく読み取る学習にも取り組ませていく。

宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.9	68.4	67.3
	B 図形	59.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	78.5	71.2	70.9
	D データの活用	76.5	68.3	65.5
観点	知識・技能	73.7	68.4	67.2
	思考・判断・表現	68.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は73.9%であり、市の正答率を5.5ポイント上回っている。 ○「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりして答えを求める」設問の正答率は78.9%であり、県よりも6.9ポイント上回っている。	・加減乗除に関わる計算は、今後も計算の順序のきまりを繰り返し指導し、反復練習を行って定着を図る。
B 図形	○平均正答率は59.9%であり、市の正答率を7.7ポイント上回っている。 ○「テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その特徴を選ぶ」設問の正答率は77.5%であり、県よりも15.6ポイント上回っている。	・図形の構成要素や性質について繰り返し指導し、作図に繋げていく。 ・三角定規を組み合わせて垂直、平行をかくという基本が定着されていることを確認した上で、様々な三角形や四角形を正確にかけるように、今後もコンパスや分度器等の用具を使った活動を多く取り入れるようにする。
C 変化と関係	○平均正答率は78.5%であり、市の正答率を7.3ポイント上回っている。 ○「椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さを求める」設問の正答率は71.8%であり、県よりも18.3ポイント上回っている。	・復習問題のプリントを活用し、比例や割合の学習内容の定着を図る。
D データの活用	○平均正答率は76.5%であり、市の正答率を8.2ポイント上回っている。 ○「2つのグラフから、30分以上の運動をした日数が『1日』と答えた人数に着目して、分かることを書く」設問の正答率は70.4%であり、県よりも12.4ポイント上回っている。	・目的に応じてグラフを選択したりデータの特徴を捉えたりして、必要な情報を読み取ることができているので、算数科だけではなく社会科や総合的な学習の時間など、他の学習でもその力を生かしていけるように指導していく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」と回答した児童の割合は、98.6%で、全国の平均を1.7ポイント上回っている。「いじめゼロ強調月間」でいじめを取り上げた道徳の授業を行ったり、一人一人がいじめゼロのスローガンを書いたり、いじめについて考える活動を行い、いじめはいけないという意識を学校全体で共有できている成果であると考えられる。今後もいじめゼロ強調月間の時はもちろん、いじめは絶対いけないという意識を日頃からもてるように、教育活動全体を通して指導していく。

○「自分にはよいところがある。」と回答した児童は90.3%で、全国の平均を6.8ポイント上回っている。また、「将来の夢や目標を持っている。」と回答した児童については全国の平均を4.6ポイント、「人の役に立つ人間になりたいか。」の設問の肯定割合は全国の平均を1.3ポイント上回っている。最高学年として下級生の世話をしたり、学校全体の仕事に責任をもって取り組んだりする経験が、自己有用感の向上につながっていると考えられる。また、未来キャリアパスポートの活用やキャリア教育を通して、将来の自分の姿を思い描くことができていると言える。今後も様々な教科や学校生活において、夢に向けて努力している事例にふれさせたり、高学年としての役割を果たす中で成功体験を積み重ねていく。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」と回答した児童の割合が86.1%で、全国の平均を11.3ポイント上回っている。今後も、宿題や授業の中で効果的な使い方を考え、学習に役立つ有効なツールとして使用していく。

●「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」の設問の肯定割合は、77.8%で、全国の平均を1ポイント上回っているが、県の平均を3.4ポイント下回っている。また、「国語の勉強は好き」と回答した児童の割合も55.6%と、全国の平均を9.3ポイント下回っている。今調査の国語科の結果は、多くの項目が市・県・全国の平均を上回っており、学習内容はよく理解できていると言えるので、今後は話し合い活動を充実させ、自分の立場を明確にして、相手の考えとの共通点や相違点を意識しながら学習を進めるとともに、相手の考えのよさを生かして自分の考えを広げたり深めたりできるように指導していく。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の設問の肯定割合は、72.2%で、全国の平均を1.5ポイント上回っているが、県の平均を3.9ポイント下回っている。「学校の授業以外に、普段1日当たりどのくらいの時間勉強しているか。」の設問で学年の自主学習時間の目安である1時間以上学習している児童の割合は72.2%で、全国の平均より15.5ポイント上回っており、家庭学習には意欲的に取り組んでいるので、自主学習カードに、毎日の自主学習の内容や取り組んだ時間を記録させたり自主学習ノートのまとめ方を提示したりして、中学校に向けて自分で計画的に授業内容の予習や復習ができるように励ましていく。

宇都宮市立峰小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、友達と意見の交流を図りながら協働する力の育成	教材やICTを効果的に活用し、自分の考えをノートやタブレットにまとめ、意見交換する機会を設けている。	「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。」の設問の肯定割合が66.7%で全国の平均より3ポイント上回っており、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と回答した児童の割合は全国の平均より10ポイント高くなっている。
目標やめあてに基づき、学んだことを振り返る活動の充実	学習展開を工夫して、今行っている学習活動を意識させ、授業を振り返るための視点を児童に与えている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」と回答した児童の割合は、全国の平均より5ポイント高くなっているが、「あてはまらない。」と回答した児童の割合も2ポイント高くなっており、個人差がみられる。